第 28 回日本災害医学会総会・学術集会に参加しました（2023/3/9-11）

テーマ：災害保健医療の過去・現在、そして未来　“人材育成”
場　所：盛岡地域交流センター「マリオス」／いわて県民情報交流センター「アイーナ」（岩手県盛岡市）

2023 年 3 月 9 日（木）～11 日（土）の 3 日間、岩手県盛岡市の盛岡地域交流センター「マリオス」、いわて県民情報交流センター「アイーナ」にて、第 28 回日本災害医学会総会・学術集会が開催されました。3 年ぶりに開催された現地対面のみの学術集会で、会場の至る所で「久しぶり！」の言葉と笑顔が飛び交っていました。約 2100 名の災害医療従事者、救急・消防関係者、保健行政関係者等が盛岡に集まりました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）がパネル座長及び発表、そして社会医学系専門医・指導医講習会の運営を行いました。

学術集会に先立ち 3 月 9 日（木）午前に岩手県公会堂で開催された評議員会で、佐藤健教授（防災教育実践学分野）研究室に所属していた大学院卒業生佐藤美樹氏の論文「大規模災害時を想定した分娩取扱施設における災害対策」が、2022 年度優秀論文賞を受賞したことが報告されました。

学術集会では、まず眞瀬智彦会長（岩手医科大学医学部教授）より、東日本大震災に被災 3 県で開催された初めての学術集会の意義について会長講演がありました。パネルディスカッション 2「東日本大震災　被災地からの発信～宮城県～」では、石井正副会長（東北大学病院教授）と佐々木准教授が座長を務め、川内淳史准教授（歴史文化遺産保全学分野）、越村俊一教授（災害ジオインフォマティクス研究分野）、門廻充侍助教（津波工学研究分野）、橋本雅和助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）、森口周二准教授（計算安全工学研究分野）が、当研究所での研究、専門分野の最新の知見について紹介しました。また今年度新設された学会主導研究委員会セッションでは、委員を務める佐々木准教授が、当研究所での医学を交えた学際的研究について紹介しました。災害医学研究を促進する同セッションには多くの聴衆が集まり、熱い議論が交わされました。新型コロナウイルス感染症に関連するセッションも多く、尾身茂新型コロナウイルス感染症対策分科会長による特別講演もありました。また 2023 年 2 月に発生したトルコ地震に関連し、ガジアンテップ大学副学長による特別講演、国際緊急援助隊医療チームによる活動報告もおこなわれました。学術集会最終日は東日本大震災から丸 12 年となる 3 月 11 日であり、閉会式の途中で参加者全員による一分間の黙祷が行われました。会場の至る所で情報交換が行われ、対面開催の意義を強く感じることのできた、有意義な学術集会となりました。

日本災害医学会総会・学術集会は第 29 回が 2024 年 2 月 22 日（木）～24 日（土）に京都府京都市、第 30 回が愛知県名古屋市、第 31 回が新潟県新潟市で開催される予定です。保健医療以外の分野からの参加者、演題登録も広く待ち望まれています。

眞瀬会長（岩手）、石井副会長（宮城）、島田副会長（福島）、大友代表理事による特別セッション

災害医学と他分野の学際的研究について紹介する佐々木准教授

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）、佐藤健（防災教育実践学分野）、
川内淳史（歴史文化遺産保全学分野）、越村俊一（災害ジオインフォマティクス研究分野）
門廻充侍（津波工学研究分野）、橋本雅和（災害ジオインフォマティクス研究分野）、
森口周二（計算安全工学研究分野）